科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー（海外）：中国雲南省における持続的農業 ILAS Seminar (Overseas) :Field survey to study the sustainable agriculture in Yunnan Province of China			担当者所属職名・氏名	農学研究科　准教授　熊谷　元		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2025・前期集中	受講定員(1回生定員)	12 (12) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	集中 事前研修の開講日時は追って通知する。中国での臨地研修は9月上・中旬を予定。	教室	事前研修は、農学・生命科学研究棟3階栽培システム学研究室で実施。 (北部構内)			使用言語	日本語及び英語
キーワード	中国 / 農業 / 環境 / 文化 / 食生活						

[授業の概要・目的]

本プログラムは、京都大学農学研究科と中国昆明理工大学との間で2006年に締結された部局間交流協定に基づいて2007年から開始した短期学生交流プログラムに基づく中国雲南省への派遣である。本プログラムの目的は、優秀な京大生を派遣し、相手国および自国の農業と環境の実態を正しく把握することを介して両国の自然・文化・社会環境をよりよく理解し、国際感覚を涵養することである。

　プログラムでは、両国の農業と環境の実態を正しく理解するため、農村における河川水の採取・分析と汚染の要因解析の実施と農村での聞き取り調査を含むフィールドトリップおよび社会・文化に関する施設見学と講義・討論を組み合わせた独自の研修を実施する。研修の実施においては、派遣先の教員だけでなく両国の学生が行動を共にし、両大学の学生の交流を図る。研修の終わりには、研修の成果を両大学の学生がグループごとに共同して取りまとめ、発表会を行う。

[到達目標]

本プログラムの実地研修により、参加学生が過度に集約化された中国農業と環境に配慮した日本農業との違いや両国の異なる自然・社会・文化環境を実感することを目標とする。研修は基本的に英語で行うため、京都大学の学生にとっては国内での英語学習の成果を確認できること、英語でのコミュニケーションに慣れることも目標となる。学習の成果は、研修期間の最後に行なう発表会により確認する。

[授業計画と内容]

部局間協定大学である昆明理工大学の協力のもと、下記の授業を行う。現地研修での使用言語は基本的に英語であるが、一部、中国語と日本語間の通訳がある。

1.事前講義（７，8月に4回）

　①中国南西部の農業システムの変化

　②～④野外調査の基礎（水質分析法、農家調査法、GPSを利用した野外調査法）

2.現地研修（9月に10日間）

　①講義「昆明市における農・畜産業と水質汚染」昆明理工大学　IRBIS教授

　②～⑦野外調査　都市と農村における生活実体験（昆明市）

　　農・畜産業と都市による水系汚染の実態調査（昆明市）

　　持続的農業と環境修復技術の実態調査（昆明市とその周辺）

ILASセミナー（海外）：中国雲南省における持続的農業(2)へ続く↓↓↓

⑧～⑨水質分析と解析（昆明理工大学）
⑩～⑪成果発表　研修レポートを作成と発表（昆明理工大学）
3.フィードバック（帰国後に実施）

[履修要件]

参加者は、海外渡航資金を工面できること。必要な資金の詳細は4月に行われるオリエンテーションの時に説明する。参加者は自己責任の原則を自分と両親が了承し、必要な保険等を掛けること、海外滞在リスクを充分認識し自らを律することができること。学生教育研究災害傷害保険に加入していること。受講定員を超える受講申込があった場合は、選考を行う。８月に予定する中国側交換学生の受け入れ行事へ参加すること。受講者は，事前講義へ必ず参加すること。

[成績評価の方法・観点]

事前講義、現地研修への参加状況および研修レポートと発表状況により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

成果発表のため、PowerPointの使用に慣れておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

・募集定員は１２名であるが、定員に余裕があれば２、３回生も募集対象
・成績報告は、開講日（9月上旬）以降になる

[主要授業科目（学部・学科名）]